当財団の「アドミュージアム東京」資料室には、さまざまな企業PR誌が所蔵されています。
その中から優れたものを取り上げ、それがどのような企業個性を表し、時代を捉えているかを探ります。

三越呉服店『時好』1906年

『花ごろも』の後継誌として登場

『時好』は、明治32（1899）年1月に創刊された『花ごろも』の後を継ぎ、明治36（1903）年にスタートしました。時好とは、その時代の好み、流行という意味です。三越呉服店は雑誌『時好』によって流行の発信者としての自らの立場を世の中に訴求しました。

『花ごろも』と『時好』は“流行に先立って流行を作り、新しい呉服のインフォメーションを行う”という基本的な考え方は同じですが、『時好』のほうがより実用的になっています。ページ数も『花ごろも』が300ページを超す分厚い冊子であったのに比べ、こちらは60ページほどのコンパクトな作りです。

この欄で紹介するのは、明治39（1906）年1月1日号です。

最初のページは、「英国皇后アレキサンドラ陛下と愛狆マーベル」と見出しがついて、狆を抱いた英国皇后のサイン入りの写真が中央に置かれています。左端に「マーベルはわが皇后陛下より贈進せられたる狆にして、山下氏これを携えて英国に渡りたり。陛下の写真は陛下が自署して山下氏に与えられたるもの」と説明があります。ちなみに2月1日号のトップページも、英国皇帝陛下と2月に来日なさるアーサーコンノート親王殿下の写真を掲げ、歓迎の意を示しています。

三越呉服店が、英国皇室の写真をまず掲げるのは、それが西洋文明の象徴的なイメージであり、高いステータスを示すものだからでしょう。

ページを繰ると、「東京国分氏令嬢」「東京内田氏令嬢」「東京小山氏令嬢」と3人の名家令嬢の晴れ着姿の写真が並んでいます。そして「謹賀新年広告」という見出しの、三越呉服店のインフォメーションです。「お年玉用に適当なる品々　最新柄呉服太物類　呉服切手　勅題模様新製品　舶来化粧品類　凱旋記念新製品　和洋小間物類　元禄模様新製品　沢山取り揃えおき申し候間多少にかかわらず御用仰せつけくだされたく願いあげ奉り候」とあり、すでに百貨店としての幅広い品揃えです。

『時好』表紙　明治39年1月1日号

続いて15ページにわたる写真入りの新柄呉服の紹介です。博多片側帯、繻珍丸帯、小巾友禅縮緬、厚板片側帯、新大島紬など、それぞれの呉服に説明があり値段が入り、商品カタログになっています。

世界のさまざまな流行を考察

その後から記事になります。前年の日露戦争勝利の興奮が巻頭の言葉に表れ、「然り、我が国すでに第一等国の班に入る。顧みて、我が国の実際を見よ。わが武威の強猛なりしと等しく、社交の美、家庭の美、『時好』の美等は、果たしてよく一等国国民たるに遺憾なきか否や」と訴えます。

戦いに勝ったが、一等国民にふさわしい文化を振興し日本の声価を高めなければならないという主張です。この時代の日本人の意識がわかります。

「廣澤伯の泰西流行談」は、欧米漫遊を終えて帰国した伯爵廣澤金次郎氏へのインタビュー記事です。今ロンドンではやっている色合いから話が始まり、自動車の盛んなこと、宴会の様子、日本の着物が外国で大流行していることなど興味をそそります。

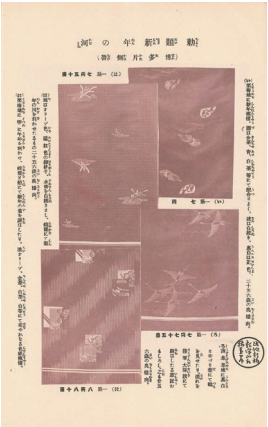
「新春の新流行」は、「明治三十九年の新春にいかなる衣服が流行するか。現時東京市の流行如何　本篇は述べ尽して余蘊なし」というリードコピーで、「退紅色の流行」「紋の小さくなる」「御婦人向き黒羽織」「格子縞もしくは弁慶」「模様もの」「山繭入り縮緬」「帯は金茶色」「長襦袢」と項目ごとにその年の傾向を紹介します。

「流行と新聞紙の勢力」は、水谷不倒の署名記事です。新聞の勢力によって流行が人為的につくられることへの懸念を表明しています。

小川煙村の「海老茶袴と婦人の帯」は、帯の美点を列挙しています。そして最近流行の海老茶袴よりも帯を締めてほしいという願いを記します。水谷不倒と小川煙村のエッセイはいわば反流行論であり、このような文章を載せる『時好』の懐の深さを感じます。

伊椎民子の「改めたきもの」は、「箪笥は抽斗式よりも棚板式のほうが便利」「大勢の人が集まる広い場所では衣装の模様は派手な大柄なものがいい」な

おかだ よしろう● 1934年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。56年電通入社。コーポレートアイデンティティ室長を経て電通総研常任監査役。98年退職。70年の大阪万博では、「笑いのパビリオン」を企画。80年代は電通のCIビジネスで指導的役割を果たす。著書に『社会と語る企業』(電通)、『観劇のバイブル』(太陽企画出版)、詩集『散歩』(思潮社)、『世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか』(講談社)など。



左：英国皇后と愛狆マーベル。狆は、わが国皇后陛下より英国皇后に増進された　中：勅題『新年の河』(博多片側帯)　右：英国皇后の愛狆マーベルのよだれ掛け。三越呉服店が手掛けた

ど女性らしい実感のある提案をしています。

前田曙山の「月桂樹」は、近来流行している月桂樹についての蘊蓄を披露しています。

井上與十庵の「田園風俗の今昔」は、故郷の風俗の変化を髷形、下駄、銘仙の3つの話題で語ります。

伊原青々園の「役者と図案」は、役者の定紋に関するいわれを伝説も交え興味深い読み物にしています。

武田桜桃の「流行天狗会」は、明治の大通(人情・世事に通じた人)たちの趣向比べのお話です。

むらさき生の「当世流行叢談」は、まず勅題「新年の河」にちなんだ新製品(半襟、片側帯、帛紗など)を披露し、新しい流行として、紋を付けた洋服、革製ネクタイ、革製チョッキ、頭巾付きインバネス、組ネクタイ組半襟などを提案します。また西洋酒の中でウイスキーが流行していると述べています。

黒田撫泉の「若菜籠」は、去年今年の変化を老婦人と妙齢の美人の入れ替わりに擬し、軽妙な筆で描出します。さらに新年模様、半襟の模様のあり方に意見を呈します。

「流行研究会図案 半襟およびネクタイ」は、三越呉服店で売り出した新製品の紹介です。

「懸賞絵はがき彩色募集」は、読者に絵はがきの彩色を募集しています。冊子の巻頭に挟んだ絵はがきを自分の思うような色合いで彩色し、投書する方式です。統計をとり最も多くの読者が望む着物の色、帯の色、羽織の色で彩色し、2月号で発表するのです。最も近い彩色をした50名に、賞品として銀貨入れ(少年へ)か半襟、帯締め(少女へ)が贈られます。

亀井教場の「季節料理」は、料理の作り方の指南です。正月にふさわしく、◎魚肉料理(あまだいの黄金酢)、◎野菜料理(八ッ頭のふくめ煮)、◎鳥肉料理(豆そぼろ)、◎味噌吸い物(春の野川)、◎お菓子(鶯宿梅)、◎香の物(源平漬)とハイカラな料理が並びます。

「弦斎式料理服および弦斎式足袋の発売」は、料理家・村井弦斎氏夫人の考案による実用的な台所服と足袋を三越呉服店で発売する告知です。

「雑誌抄」は、「ロンドンにおける日本服の流行」(女学世界)、「衣服の色合」(日本の家庭)、「頭巾」(実業の日本)、「洗濯小話」(衛生新報)などファッションに関する雑誌の記事を紹介します。

「花柳界の晴衣」は、新橋、日本橋、浅草、赤坂、横浜の名妓64人の晴衣の色合い模様、帯地および模様などを記述し、明治39年新春の流行を描き出します。

企業PR誌としての先進性

「時好彙報」は、三越呉服店の、お得意の便利のために尽くす企業姿勢を述べています。そして業務上の一切の事項に関し気づいた点があれば代表取締役日比翁助宛てに意見を送るよう要請しています。また同じページに「投書募集」として、衣服または流行に関して人に知らせてもよいと思ったことの投書を求めています。顧客の考えをなによりも尊重するポリシーがはっきり感じ取れます。

『時好』本文のページ上部には「冬向呉服物代価一覧表」として「友禅ならびに形染物類」「縞着尺ならびに御羽織地」「羽織胴裏類」「御婦人御袴地類」「御婦人帯地類」「染め合い模様物類」など商品一覧と代金が記載されています。巻末には「注文書」が2枚付いており、この用紙で申し込めるようになっています。『時好』はまさに通信販売のカタログでもあるのです。

また大附録として、極彩色石版摺の「時好双六」も付いていて、正月らしい楽しさいっぱいの冊子です。

『時好』は、時代をリードする三越呉服店ならではの広い視野と先進性を持ったPR誌だと言えるでしょう。

＊引用箇所の表記は新字・現代仮名遣いに変更